

# フクダ電子は医療機器専門メーカーとして皆さまの健康な毎日を応援いたします。

<p>1月</p>  <p>タンチョウ 撮影：北海道 釧路市</p> <p>北海道に一年中生息しています。一時は絶滅が心配されましたが、釧路市や鶴居村などで冬の給餌を行って保護するようになり、現在の生息数は千羽を超えるほどになりました。夜は集団でねぐらに入るので、給餌場の近くにねぐらに適した川があることも大切です。早朝にねぐらから給餌場へ飛び立ちます。</p>	<p>2月</p>  <p>コミズク 撮影：茨城県 猿島郡</p> <p>頭に小さな耳のように見える羽(羽角)があることから、この名前になったフクロウの仲間です。晩秋の頃にシベリアのツンドラ地帯から渡来し、河原や農耕地などの野ネズミが多数生息する場所で越冬します。フクロウ類は夕暮れから活動するのが普通ですが、本種は昼過ぎから活動することがあります。</p>	<p>3月</p>  <p>ハヤブサ 撮影：茨城県 日立市</p> <p>速く飛ぶことから「速い翼」が転じてこの名になったもので、鳥の中では一番早く飛ぶという説もあります。確かに獲物を捕らえるときに翼をたんで急降下(滑翔)するスピードははととても速く、時速300km以上という記録もあるようです。海岸の崖などに止まって獲物を探し、ねらいをつけた小鳥を襲います。</p>	<p>4月</p>  <p>イスカ 撮影：北海道 北見市</p> <p>物事が食い違って、思うようにならないことを「イスカの嘴の食い違い」と言いますが、イスカにとってのこの嘴は、大好物のマツの種子を食べるためには必要不可欠な道具になっています。嘴の交差の仕方は個体によって違い、生まれてから徐々に嘴が伸びていく段階でどちらかに交差すると言われています。</p>
<p>5月</p>  <p>フクロウ 撮影：北海道 上川郡</p> <p>北海道に生息しているフクロウの亜種で、エゾフクロウと呼ばれています。本州に生息する亜種フクロウに比べて全体に白っぽいのが特徴で、比較的警戒心も少ないようです。親鳥が巣立ちしたヒナに寄り添うことは時にはありますが、このように日中に巣穴の前に親子が並んでいるのはとても珍しい光景です。</p>	<p>6月</p>  <p>ライチョウ 撮影：富山県 中新川郡</p> <p>日本アルプスの標高2500m以上の高所に生息し、氷河期の遺存種と言われる国の特別天然記念物です。季節によって羽が生え替わることは有名で、冬になるとほぼ全身が真っ白になります。雲上で生活し、雷を静める力を持つと言われ「雷鳥」という名前になったそうです。よく岩の上で見張りをしています。</p>	<p>7月</p>  <p>オオタカ 撮影：群馬県 館林市</p> <p>同じ仲間のツミやハイタカよりも大きいことから「大鷹」でオオタカになったとか、成鳥の背の色が濃い蒼色なので「蒼鷹」で、転じてオオタカになったとも言われています。この、ミズキの木陰で休息中の個体は、今年生まれの若鳥です。背の色模様はまだ若鷹のものですが、鋭い眼光は成鳥と変わりません。</p>	<p>8月</p>  <p>ノビタキ 撮影：長野県 諏訪市</p> <p>高原の夏に咲くヤナギランは、秋が静かに近づいていることを知らせてくれる花です。ここで生まれた夏鳥のノビタキにはまだ幼羽が残っていますが、9月下旬から10月には越冬地の東南アジアへ渡っていかねばなりません。飛び立つ前には羽が生え替わりますが、その直前のつかの間の休息でしょう。</p>
<p>9月</p>  <p>ダイサギ 撮影：三重県 松阪市</p> <p>群れで行動することが多いサギ類ですが、採食場ではそれぞれ個々の縄張りを持っているようです。それでも、獲物が多いところなどでは群れのまま採食することがあります。このときも、群れで餌場にやって来たものの、食べ物の取り合いからか小競り合いが始まり、結局争いになってしまったようです。</p>	<p>10月</p>  <p>メジロ 撮影：東京都 府中市</p> <p>メジロは子育ての時期は昆虫類やクモ類などの動物質のものを多く捕りますが、それ以外の時は花蜜や木の実をよく採食します。木の実の色が鮮やかで美しいコムラサキにやって来た2羽は夫婦なのでしょうか。仲良く採食に来たのか、それともまだ熟していないようだ、食べ頃を見極めに来たのでしょうか。</p>	<p>11月</p>  <p>カケス 撮影：東京都 府中市</p> <p>ミズキにやって来ましたが、木の実はすっかりなくなっています。カケスは食べ物を貯蔵しておく習性があるので、食べ物が少ない時期はそれを食べればあまり移動する必要はないと思いますが、そうもいかないのかもしれませんが。山に食べ物が少ない年は、平地もやはり少ないので食べ物探しは大変です。</p>	<p>12月</p>  <p>ハマシギ 撮影：三重県 津市</p> <p>浜辺で生活するシギなので「浜鷗」という名前になりました。ですが、河原や湖沼の水際、水田などにも生息しています。厳寒期の北海道でも越冬することがありますから、暖地でたまたま雪が積もっても何の心配もありません。浜辺で採食した後で陸地へ上がり、群れでしばしの休息に入ったのでしょうか。</p>